企画展

仰ぎて天文を見る

―江戸時代の天文学・暦学・星占い―

2023年7月28日(金)
～8月29日(火)
※会期中無休※

【写真】右上：天象列次之図（部分、当館蔵）
右下：天球儀（大将軍八神社蔵）
左　：天文図解（部分、当館蔵）

彦根城博物館
〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号
TEL 0749-22-6100

【開館時間】 午前8時30分～午後5時
＊入館は午後4時30分まで

【観 覧 料】 一般500円、小・中学生250円
＊常設展示「ほんものとの出会い」もあわせてご覧になれます。
＊団体（30名以上）は割引がございます。

【交　　通】 JR東海道本線・近江鉄道［彦根駅］から徒歩15分
名神高速道路彦根インターから車で10分
＊近隣の市営駐車場をご利用ください。

＊詳しくは当館ホームページ（https://hikone-castle-museum.jp/）をご覧ください。

彦根城博物館
Hikone Castle Museum

星座図（部分、彦根市立図書館蔵）

企画展

仰ぎて天文を見る

― 江戸時代の天文学・暦学・星占い ―

2023年7月28日（金）～8月29日（火）

古くから人々は天文（てんもん）を観察してきました。天体の動きから暦が作られ、天文現象は吉凶の兆しなどとしても解釈されてきました。天文現象に対する人々の関心は強く、古くから様々な書物に日食や月食、彗星や超新星に関する記録が残されています。

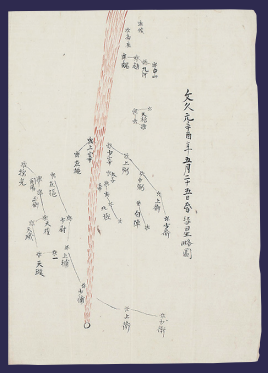
天体は信仰の対象ともなりました。二十八宿や九曜（くよう）星といった星の信仰は、中国において仏教、特に密教に取り入れられ、日本にも伝来しています。

江戸時代に入ると、中国の天文学だけでなく西洋科学の影響も受け、精密な天体観測に代表される科学的な天文学・暦学が発展・普及しました。天文学の普及は観測器具への関心も高め、西洋の望遠鏡や測量器具が輸入され、さらに日本でも自ら製作する者が現れます。これらはコレクションの対象にもなり、彦根藩井伊家には、イギリス製の測量器具や、国友一貫斎（くにともいっかんさい）・岩橋善兵衛（いわはしぜんべえ）が制作した望遠鏡などが伝来しています。

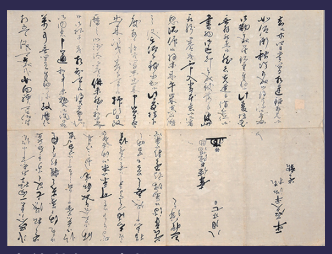
その一方で、江戸時代にあっても、仏教の経典や陰陽道などに基づく星占いが種々の書物で流布していました。また『古事記（こじき）』『日本書紀（にほんしょき）』の記述に依拠した論理で天文現象を説明する国学者もいました。

本展は、古文書や書物、観測器具などを通して、江戸時代の天文学や天文にまつわる文化を紹介するものです。

反射望遠鏡　国友一貫斎作
（当館蔵）

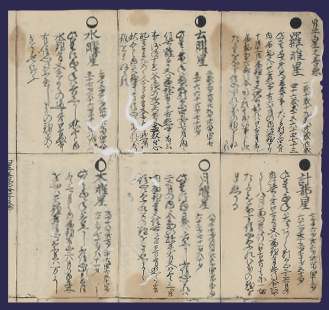


彗星略図（部分、当館蔵）



幸徳井保暠書状（彦根市立図書館蔵）

天保大雑書万歳暦
（部分、当館蔵）



九曜星占術書付（部分、当館蔵）

◎　関連事業　◎

①スライドトーク
- 日　時　7月29日㈯　午後２時～（30分程度）
- 会　場　当館講堂
- 参加費　無料
- 定　員　50名（当日受付、先着順）

②関連講演会「江戸時代における天文の理解について」
- 日　時　8月19日㈯　午後２時～３時30分
- 会　場　当館講堂
- 受講料　100円（資料代）
- 定　員　50名（当日受付、先着順）
- 講　師　当館学芸員　荒田雄市

展示および関連事業の内容が変更となる場合があります。最新の情報は、当館ホームページ（https://hikone-castle-museum.jp/）をご覧ください。